

1. 科目名 (単位数)	経営財務特論 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5354
2. 授業担当教員	【池袋】平 仁 【名古屋】水野 満			
4. 授業形態	講義、ディスカッション等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	<p>経営財務論は、「企業価値を高めるためには、財務戦略をどう展開したらよいか」を考察する。本講義は、企業のそのような意思決定に有益な経営財務の理論を学び、実務への応用力を養うことを目的とする。そのための方法論としてケーススタディーを用い、実践的な検討をしていく。したがって、本講座では、経済学の基礎理論はもとより、学部レベルの統計学・金融論を理解していることを求める。少なくとも、知識が乏しい学生は初段階のうちに学部レベルの教科書を自習する必要がある、前半部では学部レベルの金融論の知識の確認を行う。</p> <p>その上で、これまでの日本企業の財務戦略とその問題点や今後の課題を理論的なフレームワークに基づいて議論する。経営財務論には、その理論体系が企業の現場で活用されているという点では、経済・経営系の学問の中では、現場との関係が強いという特徴がある。同時に、現場で得られた知見のフィードバックが学問の展開につながっているのも特徴であり、こうした相互関係に注視した議論を行う。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金融論に関する知識を使いこなせるようになる。 ・コーポレート・ファイナンスの主要な理論を理解できるようになる。 ・これらの理論が、実際の企業活動にどう活用されているかを把握できるようになる。 ・実際の事例を踏まえて、資金調達とM&Aについて、実践的な知識を習得する。 ・本講義を通じて、自己の研究テーマに対する金融面からの視座を手に入れる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントを課すことはないが、各章が終了するごとに各ケーススタディーにつき、私見を含めたレポートを提出すること。(各ケーススタディーの内容の検討が不十分な場合や私見が明確でない場合には再提出を求める)			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p><前半>デヴィット・ピアンキ『お父さんが教える13歳からの金融入門』日本経済新聞社、2016年 <後半>山田晴信『ハーバード・ケーススタディ方式で企業財務を学ぶ』金融財政事情研究会、2012年 【参考書】適宜指示する</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金融やコーポレートガバナンスを理解できているか 2. 金融やコーポレートガバナンスの理論を実践的に活用できるようになっているか <p>○評定の方法</p> <p>レポート 60%</p> <p>日常授業による積極的な発言 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>経営財務論は、コーポレート・ファイナンスと呼ばれる科目とほぼ同内容であり、企業経営や企業財務に活用される、経済学(ミクロ経済学・マクロ経済学)や金融論、統計学、会計学の知識に基づいた応用領域です。したがって、大学で当該科目を勉強したことがない受講生は、少なくとも、受講前に入門レベルのテキストを一読しておくことが必要である。また、本学の特徴である双方向対話型授業を効果的に行うためには、事前学習の準備が不可欠であり、後半部ではケーススタディーを行うので、テキストのケースについて自己の意見を事前に形成してこなければ、効果的な議論・検討ができません。初学者であっても対応しますが、大学院における少人数のゼミ形式の授業は、双方向対話型授業の効果がより発揮できる場所であるので、相応の覚悟をもって受講してもらいたい。</p>			
13. オフィスアワー	追って指示する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	<前半>第1章カネ、カネ、カネ、第2章おカネのいろいろな支払い方			
【学習の目標】	金融取引が行われる意味を理解する。			
【学習の内容】	お金の機能、為替の仕組み、仮想通貨、インターネットバンキングやクレジット取引の仕組み			
【キーワード】	通貨、ドル、ユーロ、為替レート、ビットコイン、小切手、口座段高、自動引き落とし、インターネットバンキング、クレジットカード、デビットカード、送金			
【学習の課題】	・金融取引の機能と意味を理解する。			
【学習する上での留意点】	教科書の知識を実践的にイメージするよう意識すること。			
2. テーマ	<前半>第3章株式市場はカッコいい、第4章株を売買してみよう			
【学習の目標】	株式の意味と機能を理解する。			
【学習の内容】	株式市場とは何か。株式(証券)の意味、株式指標の意味			
【キーワード】	株式市場、株式取引所、株券、証券、時価総額、ビッド、アスク、スプレッド、株式指標、ダウ平均、日経平均、TOPIX、新規株式公開(IPO)、証券取引委員会、押し目買い、ブル、ベア、評価損益、リスクオン、リスクオフ、株式チャート、相場の天井、相場の底、株価レンジ、ロング、ショート(空売り)、超高速取引(HFT)、レバレッジ			
【学習の課題】	・株式投資の際に適切な行動を取ることができるようになる。			
【学習する上での留意点】	具体的な株式投資をイメージして学ぶこと。			
3. テーマ	<前半>第5章オプション、第6章ファンド、第7章債権と譲渡性預金			
【学習の目標】	・株式投資の応用編となるオプションやファンドの取引を理解する。			

	<p>・債権と株式の異同を理解する。</p> <p>【学習の内容】 オプション取引、ファンドの意味とその機能、債券取引</p> <p>【キーワード】 オプション、コール（売る権利）、プット〔買う権利〕、償還日、行使価格、権利放棄、ファンド、ファンドマネジャー、インデックスファンド、ミューチュアルファンド、ヘッジファンド、債権、額面、利回り、ジャンクポッド、中期、長期、債務不履行〔デフォルト〕、ベースポイント、譲渡性預金（CD）</p> <p>【学習の課題】 オプションやファンド、債権の機能と意味を理解し、株式との違いを考える。</p> <p>【学習する上での留意点】 株式との違いを常に意識すること。</p>
4 . テーマ	<前半>第8章企業分析、第9章おカネを借りる、第10章金利
	<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資先企業の分析できるようになる。 ・事業資金のための融資の考え方を理解する。 <p>【学習の内容】 企業分析のために必要な情報とは何か</p> <p>【キーワード】 株価収益率（PER）、市場シェア、清算価値、買収、配当、償却前税引前利益（EBITDA）、決算発表、四半期報告、業績予想、自社株買い、上場企業、非上場企業、住宅ローン、抵当権、差押え、信用格付け、破産、LIBOR、単利、複利、APR（実質年利）</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業分析を使って様々な会社を分析する。 ・金融機関が資金融資を行うための判断基準を理解し、融資を受ける方法を考える。 <p>【学習する上での留意点】 企業分析の手法は就職活動にも活用できることを意識すること。</p>
5 . テーマ	<前半>第11章純資産、第12章税金、第13章経済、第14章ベンチャーキャピタルとプライベートエクイティ、第15章おカネに賢く
	<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融以外の分野がファイナンスに与えている影響を理解する。 ・ベンチャーキャピタルとプライベートエクイティの機能を理解する。 <p>【学習の内容】 会計、税、財政、ベンチャーキャピタルとプライベートエクイティ</p> <p>【キーワード】 資産、負債、純資産、資産および収支報告書、総収入、総利益、所得税、固定資産税、消費税、キャピタルゲイン税、社会保障税、連邦準備制度（FEDとFRB）、GDP（国内総生産）、予算、財政、ベンチャーキャピタル、デュレリジェンス、プライベートエクイティ</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半部で活用する情報を整理する。 ・ベンチャーキャピタルとプライベートエクイティの活用法を考える。
6～8.テーマ	<後半>第1章 会社設立
	<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュフロー計算書の見方を理解する。 ・各種の資金調達方法を理解し、実践的に使えるようになる。 <p>【学習の内容】 財務諸表（特にキャッシュフロー計算書）の見方、予算管理の方法、資金調達の方法、投資評価の分析方法</p> <p>【キーワード】 貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、営業CF、投資CF、財務CF、運転資金、予算、資金調達、内部資金、外部資金、融資、現在価値、正味現在価値(NPV)法、CAPM、WACC、DCF、FRIC</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務三表の構造と見方を復習する。 ・会計で重視する「利益」と経営財務で重視する「キャッシュフロー」との違いを確認する。 ・DCF法を使ってキャッシュフローの現在価値を算出できるようになる。 ・WACCの定義と意味、求め方を理解する。
9～12.テーマ	<後半>第2章 上場（IPO）とM&A
	<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接金融による資金調達の意味を理解する。 ・M&Aによる事業拡大の意味とその限界を理解する。 <p>【学習の内容】 上場することの意味、M&Aの意味</p> <p>【キーワード】 株式分割、第三者割当増資、新株予約権（ストックオプション）、増資、現物出資、上場（IPO）、内部収益率（IRR）、M&A、TOB、敵対的M&A、友好的M&A、デュレリジェンス、マルチプル法、株価収益率（PER）、PBR、EBITDA、シナジー効果、買収プレミアム</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式による資金調達の方法と特徴を理解する。 ・上場のメリットとデメリットを考える。 ・M&Aのメリットとデメリットを考える。
13.テーマ	<後半>第3章 企業戦略とビジネスポートフォリオ
	<p>【学習の目標】 事業戦略と財務戦略のかかわりを理解する。</p> <p>【学習の内容】 事業の選択と集中</p> <p>【キーワード】 マーケットシェア、格付、レバレッジ効果、選択と集中、ジョイントベンチャー、MBO</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業戦略と財務戦略の関係性を理解して、事業の選択と集中を行うための代替案を考える。
14～15.テーマ	<後半>第4章 金融・資本市場の動向と資金調達手段の選択
	<p>【学習の目標】 代替シナリオを含めた財務戦略を考えられるようになる。</p> <p>【学習の内容】 複数年における金融・資本市場の動向から財務戦略を捉える。財務戦略の変更と事業戦略の変更。</p> <p>【キーワード】 資金調達計画、売上高営業利益率、総資本回転率、総資産営業利益率（ROA）、自己資本当期純利益率（ROE）、自己資本比率、D/Eレシオ、配当性向、短期金利、長期金利、日経平均、イールドカーブ、デフォルトリスク</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金調達を行う時期とその手段を考える。 ・財務戦略の変更を迫られた場合の事業戦略との関係性を考える。